

大津百町まちづくりフォーラム開催報告

- 目 的**：本市の中心市街地は、古くより交通の要衝であり、その賑わいは「大津百町（おおつひやくちょう）」と称され、そこには都市としての魅力が表現されていた。現在も、約 1,600 軒の町家をはじめとした歴史ある建造物や大津祭に代表される伝統文化、また地域のつながりや町内ごとのしきたり、生活文化が継承されており、町衆の心意気とこの地域独特の魅力を知ることができる。しかし、これらの歴史や文化も、地域住民の高齢化や少子化などによって、未来に受け継ぐことが容易ではない状況にあるといえる。そこで、大津百町・東海道の歴史や文化の大切さを丁寧に読み取りながら、このまちのあり方をみなさんと一緒に考え、一歩先に進めていくため、フォーラムを開催したもの。
- 日 時**：平成 21 年 9 月 6 日（土） 14：00～16：10
- 場 所**：中央市民センター 4 階ホール（大津市中央 2 丁目 2-5）
- 参 加 者**：60 名（広報おおつなどで参加募集）
- 内 容**：歴史博物館学芸員 樋爪修氏による基調講演、白井委員からのまちづくり懇談会の報告の後、高田委員のコーディネートにより、意見交換会を行った。
- 14:00～ 開会挨拶（都市再生課長 山田和昭）
- 14:10～ 基調講演「東海道の歴史とその賑わい」（大津市歴史博物館次長 樋爪修）
- 15:00～ 3次元映像によるまちなみ修景シミュレーション
（立命館大学 理工学研究科 渡邊賢太）
- 15:00～ 意見交換会 コーディネーター：立命館大学教授 高田 昇
パネラー：町家利活用プロジェクトリーダー 白井勝好
大津市歴史博物館次長 樋爪修
大津市都市計画部都市再生課長 山田和昭

【意見交換会でいただいた主な意見】

- ・自分たちのまちは、自分たちでこうしたいというものが大事だ。様々な提案の中で、住民にとってこれがふさわしいと感じるものから取り組んだらいいと思う。何れにしても 1 歩踏み出すことが必要だ。
- ・もう遅いといわれることも多いが、気がついたときから始めることが大切である。そこから物事が展開していくと思う。
- ・堅田から来た。何かひとつやらなければならないということは、明確だ。浜通りの歩車道の分離は、色がふさわしいかということは別にして、そのよい事例だ。京町通りでも、歩車道分離や一方通行など出来ることは多いと思う。
- ・これまで大津まちなか元気回復委員会の活動を通じて、案内看板等を設置してきたが、今後は、中央大通りに設置してある大津宿や大津事件の碑などに音声説明看板の設置を検討してほしい。
- ・山科から来た。大津百町といっている割には旧町名を表示したものが消火栓にしかない。観光客などにわかるよう看板等を設置すべきではないか。車石のモニュメントが公園などに設置してあるが、研究成果に基づいて正しい形で設置されていないので、歴史が正しく伝わるよう修正すべきだ。旧町名
- ・大津のまちのファンを増やしていく必要がある。
- ・各町内から出たハード面の要望は、行政にお願いするしかなく、できる限り実現していただきたいものだが、ソフト面、このまちをいいまちにしていこうという気持ちの面は、まちの人でアイデアを出し合ってまちづくりやっつけていかなければならないと思う。ハード面については、札の辻の高札の復元、大津事件の記念館、郭巨山の収蔵庫の確保、電線・電線の地中化、道路面の修景などは特に実現してほしいものだ。



開会挨拶



フォーラム会場の様子



基調講演



まちづくり懇談会の報告



3次元映像による修景シミュレーション



意見交換会



意見交換会

